

標準的な健診・保健指導プログラム

－ 概要 －

特定健康診査の項目

必須項目

質問票(服薬歴、喫煙歴 等)

身体計測(身長、体重、BMI、腹囲)

理学的検査(身体診察)

血圧測定

血液検査

- ・ 脂質検査(中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール)
- ・ 血糖検査(空腹時血糖又はHbA1c)
- ・ 肝機能検査(GOT、GPT、 γ -GTP)

検尿(尿糖、尿蛋白)

詳細な健診の項目

心電図検査

眼底検査

貧血検査(赤血球数、血色素量、ヘマトクリット値)

注)一定の基準の下、医師が必要と認めた場合に実施

保健指導対象者の選定と階層化(その1)

ステップ1

内臓脂肪蓄積に着目してリスクを判定

- ・腹囲 M 85cm、F 90cm (1)
- ・腹囲 M < 85cm、F < 90cm かつ BMI 25 (2)



ステップ2

- 血糖** a 空腹時血糖100mg/dl以上 又は b HbA1cの場合 5.2% 以上 又は c 薬剤治療を受けている場合(質問票より)
- 脂質** a 中性脂肪150mg/dl以上 又は b HDLコレステロール40mg/dl未満 又は c 薬剤治療を受けている場合 (質問票より)
- 血圧** a 収縮期血圧130mmHg以上 又は b 拡張期血圧85mmHg以上 又は c 薬剤治療を受けている場合(質問票より)

質問票 喫煙歴あり (から のリスクが1つ以上の場合にのみカウント)



ステップ3

ステップ1、2から保健指導対象者をグループ分け

(1)の場合	~ のリスクのうち 追加リスクが	2以上の対象者は 1の対象者は 0の対象者は	積極的支援レベル 動機づけ支援レベル 情報提供レベル	とする。
(2)の場合	~ のリスクのうち 追加リスクが	3以上の対象者は 1又は2の対象者は 0の対象者は	積極的支援レベル 動機づけ支援レベル 情報提供レベル	とする。

保健指導対象者の選定と階層化(その2)

ステップ4

服薬中の者については、医療保険者による特定保健指導の対象としない。

(理由)

継続的に医療機関を受診しており、栄養、運動等を含めた必要な保健指導については、医療機関において継続的な医学的管理の一環として行われることが適当であるため。

(参考)

特定保健指導とは別に、医療保険者が、生活習慣病の有病者・予備群を減少させるために、必要と判断した場合には、主治医の依頼又は、了解の下に、保健指導を行うことができる。

市町村の一般衛生部門においては、主治医の依頼又は、了解の下に、医療保険者と連携し、健診データ・レセプトデータ等に基づき、必要に応じて、服薬中の住民に対する保健指導を行う。

前期高齢者(65歳以上75歳未満)については、積極的支援の対象となった場合でも動機づけ支援とする。

(理由)

予防効果が多く期待できる65歳までに、特定保健指導が既に行われてきていると考えられること、日常生活動作能力、運動機能等を踏まえ、QOLの低下に配慮した生活習慣の改善が重要であること 等

動機づけ支援の内容

支援形態	<p>面接による支援 次のいずれか 1人20分以上の個別支援 1グループ80分以上のグループ支援</p> <p>6か月後の評価 次のいずれか 電話 e-mail</p>
支援内容	<p>個別支援</p> <p>生活習慣と健診結果の関係の理解や生活習慣の振り返り、メタボリックシンドロームや生活習慣病に関する知識と対象者本人の生活が及ぼす影響、生活習慣の振り返り等から生活習慣改善の必要性を説明する。</p> <p>生活習慣を改善するメリットと現在の生活を続けるデメリットについて説明する。</p> <p>栄養・運動等の生活習慣の改善に必要な実践的な指導をする。</p> <p>対象者の行動目標や評価時期の設定を支援する。必要な社会資源を紹介し、有効に活用できるように支援する。</p> <p>体重・腹囲の計測方法について説明する。</p> <p>生活習慣の振り返り、行動目標や評価時期について対象者と話し合う。</p> <p>対象者とともに行動目標・行動計画を作成する。</p> <p>6か月後の評価</p> <p>身体状況や生活習慣に変化が見られたかについて確認する。</p>

積極的支援の内容

初回時の面接による支援

動機づけ支援における面接による支援と同様。

3ヶ月以上の継続的な支援

支援形態	個別支援 グループ支援 電話 e-mail 継続的な支援に要する時間は、ポイント数の合計が180ポイント以上とする。
支援内容	<p><u>支援A(積極的関与タイプ)</u> 生活習慣の振り返りを行い、行動計画の実施状況の確認や必要に応じた支援をする。 栄養・運動等の生活習慣の改善に必要な実践的な指導をする。</p> <p>中間評価 取り組んでいる実践と結果についての評価と再アセスメント、必要時、行動目標・計画の設定を行う。</p> <p><u>支援B(励ましタイプ)</u> 行動計画の実施状況の確認と確立された行動を維持するために賞賛や励ましを行う。</p>
支援ポイント	<p>合計180ポイント以上とする</p> <p>内訳;<u>支援A(積極的関与タイプ)</u>:個別支援A、グループ支援、電話A、e-mail Aで160ポイント以上</p> <p><u>支援B(励ましタイプ)</u>:個別支援B、電話B、e-mail Bで20ポイント以上</p>

6ヶ月後の評価

支援形態	個別支援 グループ支援 電話 e-mail
支援内容	身体状況や生活習慣に変化が見られたかについて確認する。

積極的支援における支援形態のポイント数

支援形態ごとのポイント数

支援形態	基本的なポイント数		最低限の介入量
	時間	ポイント	
個別支援A	5分	20ポイント	10分
個別支援B	5分	10ポイント	5分
グループ支援	10分	10ポイント	40分
電話A e-mail、FAX、手紙等により、初回面接支援の際に作成した行動計画の実施状況について記載したものの提出を受け、それらの記載に基づいた支援	5分	15ポイント	5分
電話B 行動計画の実施状況の確認と励ましや出来ていることには賞賛をする支援	5分	10ポイント	5分
e-mail A e-mail、FAX、手紙等により、初回面接支援の際に作成した行動計画の施状況について記載したものの提出を受け、それらの記載に基づいた支援	1往復	40ポイント	1往復
e-mail B 行動計画の実施状況の確認と励ましや賞賛をする支援	1往復	5ポイント	1往復

1回の支援におけるポイント数には、一定の上限を設ける。

望ましい積極的支援の例

面接による支援

個別支援(30分以上)

または

グループ支援(90分以上)

- ・生活習慣と健診結果の関係の理解や生活習慣の振り返り、行動計画や行動目標の設定等動機づけ支援の内容を含む支援とする。
- ・食生活については、食生活の中で、エネルギーの過剰摂取につながっている要因を把握し、その是正のために料理や食品の適切な選択等が自らできるスキルを身につけ、確実に行動変容できるような支援とする。
- ・運動については、生活活動、運動の実施状況の確認や歩行前後の把握などを実施し、確実に行動変容できるような支援とする。

2週間後

電話、またはe-mailによる支援

1ヶ月後

電話、またはe-mailによる支援

2ヶ月後

電話、またはe-mailによる支援

3ヶ月後(中間評価による体重・腹囲等の測定から必要時6ヶ月後の評価までの行動目標・行動計画の修正を含む)

個別支援(20分以上)

または

グループ支援(80分以上)

4ヶ月後

電話、またはe-mailによる支援

5ヶ月後

電話、またはe-mailによる支援

6ヶ月後の評価

個別支援(20分以上)

または

グループ支援(80分以上)

- ・次回の健診までに確立された行動を維持できるような支援を行う。

後期高齢者(75歳以上)に対する健診・保健指導

基本的な考え方

生活習慣の改善による疾病の予防というよりも、QOLの確保・介護予防が重要。

糖尿病等の生活習慣病の早期発見のための健康診査は重要。

健康診査

高齢者医療法に基づき、広域連合において実施(努力義務)。
健診項目:75歳未満の健診項目のうち、必須項目のみを実施。

心電図等の医師の判断に基づき実施する項目を除く。

腹囲は、医師の判断に基づき実施。

保健指導

市町村において、本人の求めに応じて、健康相談等の機会を提供できる体制を確保。